＜市民討議用ドラフト（未完成版）＞ あなたの声で完成させる、7つの政策提案・第1次公開草案

【政策提案 No.3】街の課題・悩みの解決策の提案集 ～世代を超えて笑顔が循環する仕組みたち～

【生活基盤を守る】住まい・コミュニティ防衛｜**【福祉・共生】**全世代型地域包括ケア・ピアサポートシステム｜足りないのはハコモノやしくみではなく、自分たちの「理解」かもしれない。ひとりひとりが理解を深めれば、リソースを賭けずとも解決できる。凸凹（弱み）を輝く個性へ反転させる全世代共生プラットフォーム

【概要（Executive Summary）】

人口減少と財政制約が進む中、ハコモノ行政は限界を迎えている。建物には完成と老朽化というエンディングがあるが、人が育ち支え合う仕組みに終わりはない。真の課題は「予算や施設、人員の不足」ではなく、地域にある資源や多様な人の凸凹に対する私たち自身の「理解」の不足にある。これに対し、一人ひとりの理解を深めることで追加リソースを賭けずに課題を解決する**「全世代型地域包括ケア・ピアサポートシステム」**を社会実装する。飲食店の空き時間を活用する「まちの大きな食卓」、特別な一日を届ける「シネマ子ども食堂プラス」、社会人の指導シェア「部活ブースターズ」など、既存アセットの「シェアと多機能化」を横断展開。行政は管理から「応援の触媒」へ転換し、弱みを強みに変える「凸凹の魔法」で優しさが循環する街を実現する。

【政策提言体系整理】

構成項目	主要論点・政策思想（キーワード・具体策）
1. 政策背景・構造課題 （なぜ今必要か）	① **「ハコモノ・予算不足」という思考停止の打破**：施設新設や予算増額ばかりを求める従来行政は限界であり、老朽化による維持管理費が財政を圧迫。真に足りないのは予算やハコではなく、地域にある遊休資産や他者への「理解」であるという認識の転換が急務。 ② **縦割り行政による隙間課題と担い手不足の深刻化**：子ども、高齢者、困窮層が制度ごとに分断され、多世代が自然に交ざり合える日常の居場所が不足。行政職員減少の中、従来の公助（直接給付・直接管理）だけでは複雑化する市民の悩みを支えきれない構造的限界。
2. 政策アプローチ・内容 （具体的施策）	① **空間・移動・時間の「シェア＆多機能化」ソリューション群の実装**： **「まちの大きな食卓」**：飲食店の昼の空き時間を活用した常設子ども食堂。夜の消費やスタンプラリー景品を食堂券へ循環。**「シネマ子ども食堂プラス」**：空きスタジオ等で映画・食事・ダンスを体験する特別な体験格差解消イベント。**「走るよシャエール」**：企業通勤バスの昼間待機時間を地域移動に共同運行シェア。運転手処遇改善と移動弱者対策を両立。 ② **才能と弱みを活かす「ピアサポート＆共創型解決」エコシステム**： **「部活ブースターズ」**：社会人・シニアの技術を休日の部活指導にシェア。有償ボランティア＋Dバッジ付与で持続可能化。**「サバイバル／未来クエスト」**：日常の脅威や困りごと（悩み＝のびしろ）を市民シンクタンクで丸ごと仕組み化して解決。
3. 行政の役割・施策 （公的支援・制度設計）	① **行政は「管理」から「応援」の触媒（カタリスト）への転換**：民間アセット（飲食店・バス・施設）の地域開放に伴う規制緩和（道路占用・運行特例・衛生基準の柔軟運用）を支援。 ② **「優しさのラリー」を支えるインセンティブ＆地域循環プラットフォーム創設**：地域貢献の実績を可視化し、子ども食堂券や地域ポイントへ交換できる仕組みを公式後押し。 ③ **浮いた行政コストの「困窮層・命を守る福祉」への重点再配分**：シェアと多機能化で節減されたハコモノ・委託費を、地域包括ケア拠点づくり協力者の補助（家賃光熱費等）に投資。
4. 期待される効果 （三方良しのインパクト）	**【東海市・知多北部から全国へ広がる『三方良し＋終わりのない共生』の波及インパクト】** ① **市民・子ども・高齢者（孤独解消と自己有用感）**：歩いて行ける多世代の食卓・居場所の確保、移動弱者の解消、弱みを個性として認め合える心理的安全性。 ② **地域企業・飲食店・交通事業者（稼働率向上とCSR価値）**：アイドルタイム（空き時間・空き車両）の収益化、運転手や店舗の安定就労、地域貢献による企業ブランド向上。 ③ **行政・地域社会（持続可能な全世代型ケア）**：巨額のハコモノ建設・維持費の恒久削減、情熱や自己犠牲に依存しない自立分散型の地域包括ケアの確立。
5. ロードマップ （社会実装フェーズ）	① **Phase I（モデル実証・代表作づくり／～2027年度）**：市内飲食店と連携した「まちの大きな食卓」モデル実証、企業通勤バス「走るよシャエール」の試験運行開始。 ② **Phase II（多機能化の面的展開・制度化／2028年～2030年）**：「部活ブースターズ」の展開、シネマ子ども食堂の定期化、地域包括ケア拠点としてのシェア空間認定制度の創設。 ③ **Phase III（自走型地域共生インフラの確立／2030年～）**：知多半島全域へ「シェア型包括ケアパッケージ」を横展開。「エンディングのないハッピーエンド」が循環する街の完成。

出典：市民ボランティア活動「東海クロス・ラボ」7つに政策普及提案【政策提案 No.3】（20261101）